

オオヨシゴイの繁殖習性

儲照源¹・喬振忠²

1 秦皇島野生動物園

2 秦皇島鳥類保護標識ステーション

訳 福井和二

オオヨシゴイ (紫背葦鴉 *Ixobrychus eurhythmus*) は小型の渉禽で中国では比較的広く分布している。しかし、研究報告は少ない。われわれは1996年4月から8月にかけて、河北省秦皇島市海浜林場においてオオヨシゴイの繁殖習性を観察したので報告する。

生息環境

秦皇島市海浜林場は人工防風林、総面積1300hm²。標高1~3m、ハリエンジュ、ヤナギ、ハルニレなどの高木が主で、樹高は10~15m、灌木は主に紫穗槐 (*Amorpha fruticosa*)、クワなどが生えており、林の下には多様な環境がある、砂丘、沼沢、ヨシが生えている湿地、養魚場などの間をいくつもの小川が流れ、その先には広い水田が続いている。水田の中を縦横に水路が交差し、水路にはヨシ、ガマなどが生えている。こうした多様な生態系、優れた湿地環境は鳥類の繁殖に良好な条件を提供している。オオヨシゴイの繁殖しているこれらの地域には多くのヨシゴイ、サンカノゴイ、ツルクイナ、クイナなどが湿地や小川の中で餌をとり、繁殖している。また、バン、オオバン、カモ類も多く生息しており、これらが皆オオヨシゴイにとっては食物を取るうえで競合者となる。同時に、天敵であるハイタカ、ミナミツミ、ノスリなども生息している。

巣作りと産卵

毎年4月中旬ころオオヨシゴイは秦皇島付近へ渡ってくる。渡ってきた直後は3~5羽の群れを作って行動し、しばらくすると分散して単独行動をするようになる。5月に入るとつがい形成が始まり繁殖期に入る。

オオヨシゴイは沼沢、小川、水田などに面したヨシ原、草叢などの地面に好んで営巣する。また、地面に近い丈の低い灌木の枝などにも営巣することがある。われわれが見つけた5巣(表1)の内3巣が林の間を流れる小川の岸辺地上に営巣し、ヨシを折り曲げて作られた巣台の上に少量の枯れた小さなヨシの茎や葉をしき、簡単な浅い皿型の巣であった。隣接する巣との距離は200~300mで、これらの巣のあった場所の植生はガマ、ヨシ、チガヤなどで、高さ1.5~2.5mであった。そのほかの2巣は水田の中の水路のヨシ原に営巣していた。5個の巣の大きさは直径平均11.2(9.8~14.1)cm、深さ約3cmであり、雌雄共同で巣作りにあっていた。

オオヨシゴイは5月中旬に産卵を開始する。今回の観察では5月13日第1卵を発見し、毎日1卵ずつ産卵し、1巣4~5卵であった。5巣の合計は21卵、卵の色は白色かやや緑色を帯び、斑点がなく光沢がある。卵の重量は平均重量9.05(8.5~10.2)g、サイズは32.65(31.5~35.0)×24.9(23.2~25.7)mmであった。第1卵を産むとすぐに抱卵を始め、抱卵は雌雄共に行なうが、雌の方が抱卵時間が長い。一羽が抱卵している間、他の一羽は1mほど離れた場所にとまって、多くの時間警戒にあっている。観察によると抱卵日数が進むにつれて、親鳥の巣を護る行動が強くなり、巣を空ける回数も多くなる。抱卵日数は20~22日、長いものは24日のものもあった。

育雛

観察した21卵中、17羽が孵化し、孵化しなかった4卵を検査したところ、3卵が途中死であ

り、他の1卵は無精卵であった。

表1 オオヨシゴイの巣の記述 1996年

巣No	発見月日	営巣場所	巣材	巣の径/cm	卵数/個
1	5月5日	林内川岸地面	ヨシ桿と葉	10.8	4
2	5月5日	林内川岸地面	ヨシ桿と葉	11.3	5
3	5月9日	林地内ヨシ原高さ10cm	ヨシ桿無造作に	14.1	4
4	5月10日	水路堤高さ5cm	ヨシ桿無造作に	10.2	4
5	5月13日	水路堤地面	ヨシ桿無造作に	9.8	4

オオヨシゴイの雛は晩成型で、産まれたばかりの雛は眼は閉じたまま、全身赤裸、体側、頭頂、翼の背面にわずかに絨毛が生えている。

孵化後1日齢で雛への給餌が始まった。頸部結紮法でオオヨシゴイの育雛期の食物の種類と数量比を検査した。頸部結紮時間は雛の3, 4日齢, 10, 11日齢, 19, 20日齢で午前, 午後各1回, 各回1時間の平均値を取った。結果は魚, エビ, ドジョウ, カエル, 水生昆虫などであった。時期により食物の種類, 数量は一様ではなく詳細を表2に示す。

表2 オオヨシゴイの育雛期3段階の餌の種類と重量/g

	初期	中期	後期
種類	魚, エビ	魚, エビ, ドジョウ, 昆虫	魚, エビ, ドジョウ, 昆虫
量比	1.35(0.5~3.2)	5.32(4.6~6.1)	6.17(5.1~7.4)

雛の初期では食物量は少なくその種類は主に魚, エビである。育雛中期, 後期では食物量も増大し, 食事間隔も短くなる, その食物の種類も孵化当初とは変化があり, 中, 後期には魚, 蝦などが減少し, カエル, ドジョウ, その他の水生昆虫の比率が大きくなる。オオヨシゴイの育雛期の食物の変化の原因が, 雛の発育, 生長の速度にしたがって摂食量が増大することにより, 捕食率を高め, 急速に発育する雛の需要に答えるためであることを, 表2により知ることができる。

われわれは毎日雛の体重, 体長, 嘴峰, 跗蹠, 中指, 翼長の測定を行ない, 羽毛の状態, 行動など成長状況を記録した(表3)。

表3 オオヨシゴイの雛の発育

日齢	行動	発育状況
1	本能的に食を求める	開眼, 黄緑色絨毛に覆われ, 嘴, 脚は浅紅色
2	本能的に食を求める	初列風切および次列風切羽鞘約2mm
5	頭を上げ, 餌へ口を向ける	羽鞘約5mm, 羽の先が成熟羽となる
9	攻撃, 威嚇, 逃げる	肩および体側の羽, 次列風切羽の先端が成熟羽となる。
19	攻撃, 威嚇, 逃げる	体の各部分に成熟羽がそろふ。

1~3日齢では体重の増加は少なく, 3~11日齢で雛の体重は最も増加し, 11日齢を過ぎると体重増加は平衡状態になる。中指長の増加は5日齢前が最高となり, 跗蹠長の増加は13日齢前最高, 嘴峰, 翼長などの成長は期間中安定していた。そうした中でも, 翼長の成長率は連続して高い成長率を示したが, 巣立ち前の雛の翼長は成鳥の翼長に比べ相当に差があった(成鳥の翼長

約 140mm).

親鳥の育雛期における雛に対する防衛行動は非常に強烈で、人が巣に接近すると、親鳥は別に急いで飛び出すこともなく、巣の中に立ち上がり、頸の羽毛を逆立てて、人に対して攻撃を仕掛ける。あるいはわずかに巣から飛びだし、1mほど離れた所から止めどなく叫び声を上げながら攻撃する。このような防衛行動は育雛初期から中期にいたる間に最も激しい。雛自身の防衛行動は4~5日齢より始まり、その時の行動は、頭を高く上げて攻撃行動をとる。攻撃の甲斐が無いとみるや、雛を逃れて巣から飛び出す。

われわれの観察した5巣21卵中孵化したのは17羽で、2号巣の1羽は他の動物に殺され、5号巣の1羽は原因不明で死亡し、17羽が巣立った(表4)。

表4 オオヨシゴイの繁殖成功率

No.	1	2	3	4	5	合計
卵数	4	5	4	4	4	21
巣立ち(失敗)	4(0)	4(1死胎)	3(1無精卵)	2(2死胎)	4	17
成功率	4	3	3	2	3	15
死亡原因		1噛み殺される			1原因不明	